

【特色あるフロンティアスクールの取組事例】

都道府県番号	45
都道府県名	宮崎県

()

・学校名及び規模

宮崎市立宮崎西小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	3	2	3	3	2	21	28
児童数	110	118	87	69	88	94	4	570	

・実践研究の概要

<p>主題(テーマ)</p> <p>確かな学力向上のための学びの在り方の創造 ~ 読み・書き・計算を中心に、個に応じた、わかる学習指導の工夫を通して ~</p> <p>テーマ主題設定の趣旨</p> <p>「読み・書き・計算を中心に、個に応じた、わかる学習指導の工夫をすれば、一人一人に確かな学力が付き、進んで学習できる子どもが育つであろう。」を仮説として設定している。 系統的に計算力の向上を図るため、全学年でスキルタイムを実施するとともにスキルタイムの充実のために、全校で計算学習に取り組む。</p>

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

一人一研究を実施し、各教員のアイデアや実践事例を交換した。

() 実践研究の内容

発達段階に応じながら、繰り返し取り組むことで、児童の基礎計算力の向上をめざし、水曜日の朝自習の時間に下記のような系統でドリル学習を実施している。

	各学年の到達目標のめやす	計算練習問題の段階
1年	最終的には、100マスのたし算・ひき算ができるようになるのを目標に取り組む。	<u>たし算・ひき算</u> 20、30マスのたし算・ひき算～繰り下がりが出そろうまで。 50マスのたし算 100マスのたし算・ひき算(マス計算の最終段階) 2桁・3桁のたし算・ひき算の筆算(筆算の習熟) 10回たし算・ひき算(筆算の総まとめ)
2年	100マスのたし算・ひき算の習熟を図りながら、筆算さらには、100マスかけ算に取り組む。	
3年	始めは、100マスかけ算から、1・2年生の内容を復習しながらわり算に取り組む	
4年	1～3年生の内容を復習しながら、わり算の筆算に重点を置いて学習する。	
5年	今までの学年と同様に、100マスかけ算から取組み、全部の内容をさらっていく。繰り返して理解を深め、習熟へ向けての練習を重ねる。	
6年		<u>かけ算</u> 50マスのかけ算(かけ算の前半の段が終わった時点でスタート) 100マスかけ算(繰り返して習熟を図る。最初は順番通り、後は、ランダムに。) 2桁×2桁、3桁×3桁の筆算(2題から5題程度) エレベーター計算(計算の最終段階)
スキルタイムの学年への補助の先生 1年(先生) 2年 教頭先生 3年 校長先生 4年(先生) 5年(先生) 6年(先生)		<u>わり算</u> 穴あき九九(わり算の導入段階) 50題わり算・あまりなし(わり算の習熟を図る) 50題わり算・あまりあり(わり算のさらなる習熟。) 3桁÷2桁・4桁÷2桁の筆算(2題から3題程度) エレベーター計算へ(計算の最終段階)

() 成果と課題

成果

- スキルタイムを実施し、それを日常の学習や家庭学習に生かすことによって次のような成果が見られるようになってきている。
- ・ 決められた時間に集中して取り組むため、集中力が付き、他の学習にもよい影響を与えている。
 - ・ 自分の記録(タイム)を累積し、計算力の伸びは、明確に認識することができるので、人との比較ではなく、「自分はこれだけ伸びた」という実感がもて、児童の自信へとつながっている。
 - ・ 学力の基礎を読み、書き、計算にするという考えのもと、子どもの言語能力や計算能力を育てるための実践がなされ、学習に自信をもって取り組む児童がふえてきている。
 - ・ 少人数指導やコース別学習の工夫によって、児童一人一人の学習状況に応じた指導ができるようになってきている。
 - ・ 交換授業の実施と反省を生かして、一部教科担任制への体制づくりが整ってきている。
 - ・ 一人一研の実施を通して、それぞれの先生のアイデアや指導方法を学び合うことができ、研究の進展に大いに役立った。

課題

- ・ 計算練習だけでなく、「音読指導」や「漢字指導」などにもさらに力を入れていく必要がある。
- ・ 家庭での学習の指針を明確にし、家庭学習の充実を図っていく必要がある。
- ・ 客観的事実として、学力が向上したかどうか、説得力のある説明ができるようにするとともに、外部評価も導入していく。本校には、学校評議員だけでなく、宮崎西小教育ネットワークという組織もあるため、連携を密にし、双方向から学力の向上の取組を続けていきたい。

() 成果の普及方策

- ・ ホームページで研究の実践を公開中である。

(<http://www.mcnet.ed.jp/miyazaki-nishi-s/>)